

ショートコメント vol.236 (2022年2月22日)

テーマ：足元で進む人流の増加傾向

～まん防の延長による人流の抑制効果は限定的～

●まん延防止等重点措置の延長

新型コロナウイルスの感染第6波については、一時に比べると感染の拡大がスローダウンしつつある。一部の地域では、まん延防止等重点措置（まん防）が解除され、東京、大阪などでも感染のピークアウトが指摘されている（図表1）。ただし、高齢者を中心に重症化するケースは依然として多く、医療体制の逼迫も続くなど、まだまだ予断は許されない。

そういった状況を受け、全国各地で出されているまん防については、一部の地域を除き、3月6日までの延長となっている。中には緊急事態宣言の発出を求める声もあったものの、政府はひとまず、まん防の延長という決断を下した。

●足元で進む人流の増加

そういった中、足元の人流の状況を見ると、すでに減少から一転、増加傾向が進みつつあることが分かる。

米グーグル社が公開している位置情報を元に、小売関連（retail and recreation）の人流をみると、図表2のとおり、感染のピークアウトとほぼ同じ時期に底を打っている。

加えて、そもそも1月27日のまん防の適用以降については、人流がほとんど減少していないことが分かる。減少の起点は、1日あたりの新規感染者数が千人台を突破した1月前半であり、中旬にはすでに一定の減少が進んでいた。

つまり、今回のまん防は、人流の減少が進んだ後に適用された形であり、その効果は限定的と言わざるを得ない。感染のピークアウトも、まん防以前の人流の減少が奏功した部分が大きいといえよう。

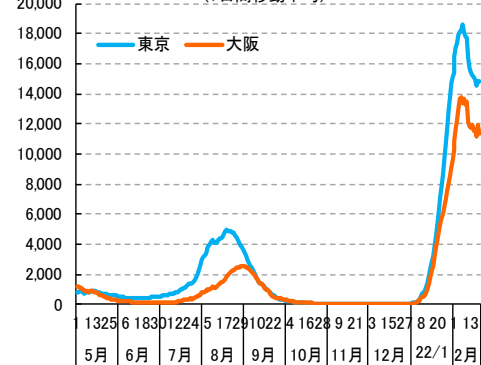
●さらなる人流の増加への懸念

こういった傾向は、今回の感染第6波が初めてではない。

すでに感染第5波などの頃から、人流はまん防や緊急事態宣言の有無ではなく、感染の推移と連動する傾向が強かった。コロナ禍の長期化に伴い、消費者が自ら感染状況を判断し、外出の場所や頻度を調節するようになっている。

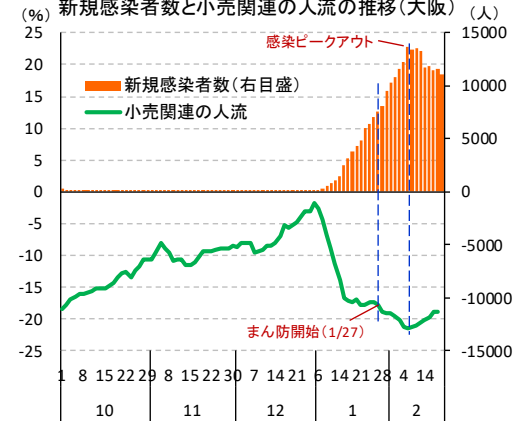
この点からいえば、まん防は3月6日まで延長されるものの、人流の減少が維持できるかといえば、極めて不透明と言わざるを得ない。基本的には感染の推移次第であり、仮にピークアウトが進むようであれば、人流は減るどころか、増える可能性も否定できない。

【図表1】 新型コロナの新規感染者数の推移 (7日間移動平均)



(出所) 東京都、大阪府ホームページ

【図表2】 新規感染者数と小売関連の人流の推移(大阪) (人)



(出所) Google、大阪府HP。データは7日間移動平均
※人流データは平日のみ。20年1~2月平均との比較

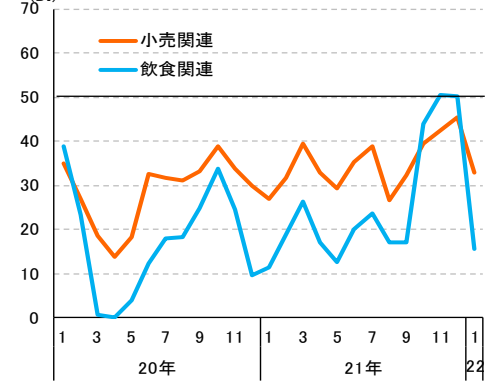
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

実際に、内閣府「景気ウォッチャー調査」の直近の結果をみると、その兆しともいえる動きがみられる。営業時間が短縮された飲食関連はDIが大きく低下している一方、百貨店やコンビニなどの小売関連への影響は限定的である（図表3）。

裏を返すと、消費者はまん防下でも一定の動きを続けていることを意味しており、全体として危機意識は低いと言わざるを得ない。こういった状況で感染のピークアウトが進めば、人流の増加が早いタイミングで進む可能性は否定できない。

今のところ、東京や大阪を中心に、新規感染者数の減少傾向は続いている。ひとまずは当面の人流の推移に注目する必要があるだろう。

【図表3】 街角景気・現状判断(水準)指数の推移(全国)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
 TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。